



大内中だより

さつきの丘

【学校教育目標】
「あいさつ日本一を目指して」

令和6年3月21日 第49号

令和6年度に向けて… 修了式と生徒発表より

後期の振り返りと三年生に向けて

2年B組 ○○ ○○

私が後期になって頑張ったことは二つあります。

一つ目は勉強への取り組みです。一回目の確認テストでは、得意教科を中心に学習を進めたため、苦手教科の点数が伸びませんでした。この経験を踏まえて、二回目の確認テストでは、得意教科の勉強に加え、苦手教科にも力を入れて取り組みました。その結果、苦手教科の点数が伸び、総合点数を上げることができました。これらのことから、得意教科だけでなく、苦手教科にも意欲的に取り組むことが大切だと思いました。

二つ目は、部活動です。後期から二年生が中心となって部活動をしてきました。そんな中、私は卓球部女子の副部長を務めています。なぜなら、一年生の時に一年生女子のリーダーを務めていたため、その経験を生かし、部員のみんなを支えていけるように頑張りたいからです。実際に活動する中で、部長の相談にのったり、部長がいないときには、先頭に立って活動することができました。

しかし、最近私は、足を痛めてしまい部活動を見学する日が多くなりました。そんな時に、部員のみんなが話かけてくれたことが、私にとって、嬉しく、心の支えとなりました。部活動は、部員のみんなが支え合いながら行うものだと改めて実感することができました。四月からは、新一年生も加え、一緒に支え合って部活動に取り組んでいきたいです。



来年度からは最高学年として、大内中学校を引っ張っていけるように、委員会などで、後輩に分からないところを教えてあげたり、話し合いでは率先して意見を言えるようにしたいです。また、受験に向けて、誘惑に負けずに、日々の積み重ねを大切にしたいです。中学校生活の残り一年間を後悔のない充実したものにしていくように過ごしていきたいです。

後期の振り返りと二年生に向かって

1年B組 ○○○ ○○○

私が後期に頑張ったことは、学習と部活動です。

学習では、前期よりもいい点数をとるために、勉強の仕方を変えました。前期では、ノートに問題と答えを書いていましたが、後期からは、答えだけをノートに書くことで、一日に覚える量を増やし、時間も短縮することができました。すると、後期中間テストでは、目標点をとることができました。さらに後期期末テストでは、自己最高点をとることができました。私は、いい点数をとるためには勉強の仕方が大事だということがわかりました。もっと点数をよくするために色々なことにチャレンジし、より自分に合った勉強方法を見つけていきたいです。

次に部活動についてです。私はスタメンとして秋季大会に出場しましたが、守備でエラーをしてしまい、チームに貢献することができませんでした。そのため、大会後に練習をもっと頑張ろうと思いました。まず、部休の日でも、兄と家の前で野球の練習をしたり、家の中でお風呂上がりにストレッチをしたりしました。私は、次の春季大会に向けて、これからも日々の練習を大切に頑張っていこうと思います。そして、守備の場面でチームに貢献できるようにしたいです。

私が二年生になったら、こうした取組を生かして、さらに学習と部活動を頑張りたいです。学習は、三年生になってもつながっていくので、これからもいい点数をとることができるよう、日々の積み重ねを大切にしたいです。また、漢字検定や数学検定にも挑戦してみようと思います。部活動は、先輩や後輩に信頼してもらうために、練習と休憩の切り替えをしっかりとしたり、誰よりも声を出したりして、チームの雰囲気をよくしたいです。さらに、自分の目標が達成できるように練習に取り組みたいです。そして、学校生活でも三年生を支え、一年生を引っ張っていけるような二年生になりたいです。



修了式 校長あいさつ

3月8日の三年生を送る会、そして、9日の卒業式は、1、2年生の皆さんのおかげで、参加した方々の心に残るものとなりました。特に、卒業式では、式に臨む姿勢が素晴らしく、先輩への感謝の気持ちを込めた歌声、ハーモニーは、皆さん一人一人の、心の代弁にふさわしいものになったと感心しました。

さて、先日読んだある本に、『「白か黒か」ではなく、「すべてはグレー」』という小見出しを見つけました。読み進めると、世の中で起こっている事象は、完全な善と悪、白と黒、では表現し切れず、全てがグレーであり、どちらかよりに濃い、あるいは薄いかという関係にあるとの事。

これに似たような話を、テレビ番組で見たことを思い出しました。カンヌ映画祭などで活躍されている映画監督の是枝裕和さんが、人生の分岐点となったドキュメンタリー番組制作を振り返り、次のように話しています。

「世の中って白と黒でできているんじゃない、グレーのグラデーションでできているという、その発見が大きかった。自分の中に訪れたある種の変革なので、そこが原点である。」

「自分が正解をもっているという錯覚に陥らないように制作現場に立つのが大事。正解というのが、明快に、事前に決まっているわけではない。」

と答えています。

学校はどうでしょうか？。学校での学習では、たいていの場合「正解」が存在します。しかし、実社会では、多くの問題に絶対的正解がありません。例えば、インフルエンザは、冬に流行するもので、それ以外の期間に患者はほとんどいないのがこれまで常識でした。今は、1年を通してインフルエンザに罹患する人が出ています。また、ある小児科の先生は、「インフルエンザを含む複数の感染症が同時期に流行するのは過去に例がない」と話していました。これからは前例がないものへの対応が求められるのです。

皆さんに求められているのは、前例がなくとも、実社会で役立つ力です。つまり、集めた情報から自分で考え判断し、出来ることを実行する力、行動する力なのです。

では、どのようにして実行する力や行動する力を身に付ければよいのでしょうか。その1つは、思考、つまり、考える力を鍛えることにあります。

皆さんは、5W1Hという言葉聞いたことはありますか？

これは、英語の疑問詞、When（いつ）、Where（どこで）、Who（だれが）、What（何を）、Why（なぜ）、How（どのように）をまとめた言葉で、人に質問する、あるいは確かめる内容を組み合わせたマナーの1つです。この中で、When、Where、Who、Whatの4つには共通点があります。これらは、明確に答える事がたやすく、クイズ番組のように知識を問う問題であり、人工知能AIが代替することが可能です。

しかし、WhyやHowは、そうはいきません。目的や理由、手段を問う質問では、答えに幅や深さがあり、たとえ正解がなくても想像や予想ができる人間の方が、最適な答え、最適解を見つけることができるからです。

「世の中は、白と黒でできているんじゃない、グレーのグラデーションでできている。」

「正解というのが、明快に、事前に決まっているわけではない。」という是枝さんの言葉から分かるように、これから大切なのは、WhyやHowを大切に学習であることがわかります。大内中学校では、これまでの学習に加えて、こうした考えも参考にしながら、来年度から各教科で「探究学習の時間」を設ける計画です。

あらためて、1、2年生のみなさん。進級、おめでとうございます。後期の生徒会活動や卒業式などで、学校のリーダーとしての底力を見せてきた2年生。仲間を思いやる気持ちをもち成長著しい1年生。頼もしい皆さんの力で、開校10年目の節目を迎える令和6年度を、大内中「躍進の年」にしてほしいと願っています。躍進するためには挑戦が必要です。これまで皆さんに示してきた「失敗は自分を磨き輝かせるもの」という言葉を、令和6年度は「挑戦は自分を磨き輝かせるもの」に変えます。これを合い言葉の1つとし、一人一人が持てる力を出し惜しむことなく、新しいことや、これまでできていなかったことに挑戦してほしいと願います。

明日からの春休み、心を整え、いい準備をして新年度を迎えましょう。